

議案第 28 号

川崎市火災予防条例の一部を改正する条例の制定について

川崎市火災予防条例の一部を改正する条例を次のとおり制定する。

平成 27 年 2 月 13 日提出

川崎市長 福田 紀彦

川崎市火災予防条例の一部を改正する条例

川崎市火災予防条例（昭和 48 年川崎市条例第 36 号）の一部を次のように改正する。

目次中

「第 6 章 避難管理等（第 50 条～第 57 条の 2）」

を

「第 6 章 避難管理等（第 50 条～第 57 条の 2）」

第 6 章の 2 指定催しに係る防火管理（第 57 条の 3・第 57 条の 4）」

に改める。

第 6 章の次に次の 1 章を加える。

第 6 章の 2 指定催しに係る防火管理

（指定催しの指定）

第 57 条の 3 消防長は、祭礼、縁日、花火大会その他の多数の者の集合する屋外での催しのうち、大規模なものとして消防長が別に定める要件に該当するもので、対象火気器具等の周囲において火災が発生した場合に人命又は財産に特に重大な被害を与えるおそれがあると認めるものを、指定催しとして

指定しなければならない。

2 消防長は、前項の規定により指定催しを指定しようとするときは、あらかじめ、当該催しを主催する者の意見を聴かななければならない。ただし、当該催しを主催する者から同項の規定による指定の求めがあったときは、この限りでない。

3 消防長は、第1項の規定により指定催しを指定したときは、遅滞なくその旨を当該指定催しを主催する者に通知するとともに、公示しなければならない。

(指定催しに係る防火管理)

第57条の4 前条第1項の指定催しを主催する者は、同項の指定を受けたときは、速やかに防火担当者を定め、当該指定催しを開催する日の14日前までに（当該指定催しを開催する日の14日前の日以後に同項の指定を受けた場合にあつては、防火担当者を定めた後遅滞なく）次に掲げる火災予防上必要な業務に関する計画を当該防火担当者に作成させるとともに、当該計画に基づく業務を行わせなければならない。

- (1) 防火担当者の業務その他火災予防に関する業務の実施体制の確保に関すること。
- (2) 対象火気器具等の使用及び危険物の取扱いの把握に関すること。
- (3) 対象火気器具等を使用し、又は危険物を取り扱う露店、屋台その他これらに類するもの（第63条第6号において「露店等」という。）及び客席の火災予防上安全な配置に関すること。
- (4) 対象火気器具等に対する消火準備に関すること。
- (5) 火災が発生した場合における消火活動、通報連絡及び避難誘導に関すること。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、火災予防上必要な業務に関すること。

2 前条第1項の指定催しを主催する者は、当該指定催しを開催する日の14日前までに（当該指定催しを開催する日の14日前の日以後に同項の指定を受けた場合にあつては、消防長が定める日までに）、前項に規定する計画を消防長に提出しなければならない。

第63条中「の各号」を削り、同条第2号中「がん具」を「玩具」に改め、同条に次の1号を加える。

(6) 祭礼、縁日、花火大会、展示会その他の多数の者の集合する催しに際して行う露店等の開設（対象火気器具等を使用する場合に限る。）

第70条に次の1号を加える。

(5) 第57条の4第2項の規定に違反して、同条第1項に規定する火災予防上必要な業務に関する計画を提出しなかった者

第71条中「法人の代表者」を「法人（法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものを含む。以下この項において同じ。）の代表者若しくは管理人」に、「従業員」を「従業者」に、「前条の罰金刑」を「、同条の刑」に改め、同条に次の1項を加える。

2 法人でない団体について前項の規定の適用がある場合には、その代表者又は管理人が、その訴訟行為につき法人でない団体を代表するほか、法人を被告人又は被疑者とする場合の刑事訴訟に関する法律の規定を準用する。

## 附 則

（施行期日）

1 この条例は、平成27年7月1日から施行する。

（経過措置）

2 この条例の施行の日から起算して14日を経過する日までに開催する屋外での催しについては、改正後の条例第57条の3及び第57条の4の規定は、適用しない。

## 参考資料

### 制 定 要 旨

多数の者の集合する屋外での催しのうち消防長が指定するものに係る防火管理に関し必要な事項を定めること、罰則の整備を行うこと等のため、この条例を制定するものである。